

## 特集「人材育成」の発刊によせて

佐伯基憲

「企業は人なり」

企業とは詰まるところ「人」である。企業経営において最大の経営資源は人、即ち社員である。社員一人ひとりの価値創出力こそが会社の力であり、会社永續のための生命力の源泉である。人の力が強くない限り、企業力は強くない。

人の力とは、即ち「知」の力である。企業活動においては、社員一人ひとりが持つ業務ノウハウや成功・失敗体験などの知識・ナレッジであり、これを組織として有機的・多面的に活用すること、即ちナレッジをマネージして初めて組織としての力となる。目先の利益を確保するために安易に人を減らすと、企業は最大の資産である社員のナレッジをも失いかねない。

昨今のIT業界では人材の流動が激化しており、人材の確保、育成と活用が喫緊の課題となっている。企業における社員の育成と活用は日々大切なことであり、社員の成長を会社業績の向上に繋げるという好ましい上昇循環を実現することは経営者の使命である。人材という経営資源は、企業を成長・発展させるための原動力である。

知識資本主義の時代といわれる今日、個人の知を如何に組織の知として蓄積、共有、活用できるようにしていくかが重要な経営課題である。ビジョンを明確にし、想いを共有し、人と人が自由闊達にコミュニケーションすることで“知”は生まれる。いま世界を代表する企業は、徹底的な人と人との対話の上に価値創出＝価“知”創出を成している。

価値創出は、一人ひとりが高い視点と広い視野でものごとを捉え、幅広い情報収集を行い、異なる価値観に耳を傾け、社内外を問わず中身の濃い対話を展開し、想いを貫き実践することを日常化することで成り立つ。

このような日々の営みの厚みと、どれだけの実行をコミットできるかが、人の英知の創出、すなわち企業価値創出の土壌を育む。

私は企業の第一の社会的責務は「永續すること」にあると考えている。会社の永續を図るためには、社員一人ひとりが自らを革新し、会社を革新し続けていかななくてはならない。

会社は社会的存在であり、社会に有用な価値を生み出して初めて存在する意義がある。価値を生み出せなくなった会社は必然的に消滅していく。

社会に有用な価値を生み出すのは、まさに社員の英知であり、やる気である。豊かな人間力や価値創出力をもった「自律的人材」である。

人を活かすのが経営。会社発展のためには、人を育て活用するという視点が極めて大事である。これをおろそかにする企業は立ち行かないといっても過言ではない。深く肝に銘ずべきことである。

本特集号を通して、日本ユニシスグループにおける知的経営、人的資本経営に関する論考や取り組み姿勢をご理解いただけたならば幸いです。

(代表取締役常務執行役員)